

## 平成29年度 佐賀県立伊万里特別支援学校 学校評価結果

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
将来の社会生活を見据え、児童生徒個々の特性に応じた教育を行う。	① 児童生徒の特性と教育的ニーズの把握に努め、個に応じた教育の充実を図る。 ② 健康・安全教育の充実を図り、安全・安心な教育環境を整備する。 ③ 進路指導の充実に努め、卒後の自立的な社会生活を目指す。 ④ 児童生徒の主体性を尊重し、「明るく」「素直に」「元気よく」「たくましく」生きる力を育む。

達成度 A: ほぼ達成できた  
 B: 概ね達成できた  
 C: やや不十分である  
 D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価							
① 児童生徒の特性と教育的ニーズの把握に努め、個に応じた教育の充実を図る。							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○個別の教育支援計画	・個別の教育支援計画を活用した保護者・関係機関等との連携	・個別の教育支援計画に示されている支援内容を保護者と共に確認しながら実施に移し評価していく。 ・重点学年において支援会議を実施し、現在及び将来に向けての支援内容を保護者及び関係機関と協議して決めていき実施に移す。	・年2回の個人懇談と家庭訪問において個別の教育支援計画の支援内容について共通理解をし、追加、修正を重ねて実施に移す。年度末に実施状況を評価して保護者に確認のサインをもらう。 ・支援会議の実施にあたっては、会議の柱を保護者と話し合って決め、関係機関には、支援会議の企画書を持ち帰って支援に生かしてもらう。	A	・年2回の個人懇談と家庭訪問の期間に支援内容について話し合い、その都度追加修正を行ってきた。年度末に実施状況を保護者、関係機関と共に確認し評価をすることができた。 ・支援会議の際は、保護者の了解を得て、関係機関が支援会議の企画者等資料を持ち帰ることで児童生徒の情報を共有できた。	・次年度、個別の教育支援計画及び支援会議の企画書の様式が変わるので、保護者や関係機関にも個人懇談や支援会議等で説明を行い、より活用しながら保護者・関係機関との連携を図っていく。
教育活動	○個別の指導計画	・個別の指導計画に基づく指導の充実	・児童生徒個々の特性に応じて小・中・高と系統だった目標を設定し、日々の指導と評価に生かす。 ・学期に2回、担任同士で個別の指導計画について話し合いを行う。また、保護者との連携をさらに深める。	・指導内容の共通理解と客観的な評価を行うために年度当初に説明会や研修会を実施する。 ・個別の教育支援計画の内容を熟知した上で作成する。新様式を使用して児童生徒の日常の様子を十分に把握するよう努める。	B	・個別の指導計画の作成や新様式についての説明を年度当初に実施できた。担任同士で学期に2回以上個別の指導計画について話し合いを行い、共通理解と評価を行った。 ・新様式を使うことで児童生徒の様子を十分に把握するよう努めた。またよりよい活用を目指して協議を進めている。	・新様式について実際に使用した後で担任に意見を尋ね、より記入しやすいものに改善する。 ・活用する方法については研究研修部と更に協議を深める必要がある。

教育活動	○キャリア教育の推進	・キャリア教育全体計画に基づく授業改善	・キャリア教育全体計画を踏まえた授業研究に取り組み、小学部から高等部まで一貫したキャリア教育を推進する。 ・より児童生徒の内面に目を向けながら、児童生徒がやりがいを感じることができるよう、指導・支援の充実を図る。	・全校研究会において、本校のキャリア教育の考えやキャリア教育全体計画の活用方法について共通理解を図る。 ・キャリア教育全体計画を踏まえた学習指導案や略案の様式を活用し、授業計画の作成や評価、授業改善を行う。 ・全校授業研究会を行い、児童生徒が主体的に活動し、やりがいを感じることができる授業の在り方を探る。	B	・年度当初に本校のキャリア教育の考えについて全職員で共通理解を行ったり、キャリア教育全体計画を踏まえた授業づくりのツールを活用したりしながら、児童生徒がやりがいを感じることができる授業づくりを積み重ねることができた。 ・授業づくりのツールを「授業計画シート」「評価シート」と改め、項目についてもより活用しやすいものになるよう検討、改善することができた。 ・全校授業研究会における、活発な意見交換や、外部講師の助言や講演を通して、児童生徒が主体的に活動しやりがいを感じることができる授業づくりの在り方(各年齢段階に応じた)について考えを深めることができた。 ・授業計画について十分に検討できなかった時期があったことや、授業後の振り返りが	次年度は、「授業計画シート」「評価シート」をより効果的に活用しながら、日々の授業計画や授業後の振り返りが十分に行うことができるよう、グループ研修や学年会の時間を確保する。 ・全校授業研究会、各学部においての授業研究会を次年度も設定し、児童生徒一人ひとりが主体的に活動し、やりがいを感じることの授業づくりの充実を目指していきたい。そのことが小中高一貫したキャリア教育の充実につながっていくと考える。	
		・「めざす子ども像」とキャリア教育全体計画を踏まえた授業づくり	【小学部】 ・個別の指導計画をもとに、一人ひとりの児童のめざす姿を明確にして授業の充実を図る。 ・授業計画と記録シートをもとに、担任団で話し合い、日々の授業の実践、改善を行う。	・児童の様子を的確に見取り、個別の指導計画に一人ひとりの重点目標を設定し、指導・支援の共通理解を図る。 ・授業や児童のことについて話し合う時間を設定する。授業の紹介、参観、研究会などを積極的に行い授業の充実を図る。		A	・それぞれの児童の様子を見取り、詳しく把握したことで、児童のめざすところが明確になり、日々の授業に生かされた。 ・意欲的に活動するにはという視点から活動の内容や流れ、支援など担任団で話し合ったことや授業研を通して意見をもらったことで、よりよい授業につながった。	・来年度は評価の2学期制や個別の指導計画が新様式に変更になることで効率的に、またより一人一人の児童に応じた指導支援ができるようになる。 ・放課後の会議等の精選を行うことで、児童や授業についての話し合いの時間を確保し、日々の授業の充実を図る。
			【中学部】 ・キャリア教育全体計画を踏まえた実践を通して、授業改善を図る。 ・小・中・高のつながりを意識した指導・支援に取り組む。	・単元ごとに授業計画と記録シートを作成し、計画、実践、評価を確実に行う。 ・他学部の取り組みを紹介したり、学部の中で、各学年・グループの授業報告会を行ったりして、指導支援の共通理解を図る。		A	・単元ごとに授業シートを作成し活動計画についての話し合いや評価の際に活用できた。 ・日常生活の指導については、学部全体で情報交換を行い共通理解を図り、指導・支援にいかした。	・系統的な単元の組み方ができるように計画、実践、振り返りを大切にして授業づくりに取り組んでいく。 ・学部内での共通理解は図れた。小・中・高のつながりを意識して指導・支援に取り組んでいく必要がある。

			<p>【高等部】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリア教育の取り組みの一環として、多様な働く経験や学習の機会を設定する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部講師を招いて進路講話を年2回実施する。</li> <li>・ジョブティーチャーを招聘し、様々な業種について学習する機会を年9回設ける。</li> <li>・企業現場における作業学習を就職希望者を中心に、3カ所で年12回実施する。また、各作業班でも年2回以上実施する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般企業で働く卒業生の話とビジネスマナーについての講話を聞く機会を設けた。就業体験前に実施したことで大変効果的であった。</li> <li>・ジョブティーチャー活用授業を9回に増やしたことで繰り返し専門的に職業を学ぶ機会となった。</li> <li>・企業現場における作業学習を予定とおりに実施することができ、多様な職業経験を積むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回の進路講話は定例にし、身近な卒業生の話、ロールプレイングを交えたビジネスマナーの効果的な学習にする。</li> <li>・ジョブティーチャーの招聘を含め清掃、介護、喫茶サービスのサービス系の作業学習の回数を増やし、多様な職業に対応できるようにする。</li> <li>・企業現場における作業学習や職場社会見学などを同様に実施し様々な職業を学べるようにする。</li> </ul>
教育活動	●教職員の専門性の向上	・児童生徒一人ひとりに応じた指導・支援の充実	・個別の指導計画に基づいた授業づくりの充実を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画の作成において、児童生徒一人ひとりの様子を十分に把握して重点目標の設定ができるように、「様子把握シート(案)」を作成し活用する。</li> <li>・「様子把握シート(案)」を中心に意見収集を行いながら、個別の指導計画の様式について検討、改善を行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様子把握シート(案)を作成し、児童生徒の様子把握を行う時間を設定したことで、より深く、子どもの様子把握ができ、職員間においても共通理解ができた。</li> <li>・個別の教育支援計画から個別の指導計画、日々の授業計画や評価という流れが一本化するよう、意見収集をもとに研究推進委員会や分掌部会や作業部会を中心に検討を重ね、これらの様式を改善することができた。</li> <li>・次年度は個別の指導計画(新様式)を実際に活用しながら、さらに様式を整えていくと同時に、個別の指導計画が児童生徒の将来を見据えた計画や目標になるよう、また、日々の指導・支援を見直すためのツールとしても使いこなすことができるようにしていくことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の指導計画を活用しながら児童生徒の様子の見取り方や様子を踏まえた重点目標の設定について、グループでの検討や事例研究等を通して理解を深めていく。</li> <li>・児童生徒一人ひとりの重点目標について学部内において情報共有を十分に行っていく。</li> <li>・様式について活用を通して意見収集を行い、さらに整えていく。</li> </ul>
		・特別支援学校教諭免許状取得率の向上	・特別支援学校教諭免許状取得の向上を目指し、要免許取得者の認定講習会への参加率を80%以上とする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育職員免許法認定講習の開催に関する情報を遅滞なく関係職員に伝達し、積極的に参加するよう呼びかける。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季休業中に9名(教諭・講師)が免許認定講習会へ参加した。</li> <li>・本校所属職員の免許保有率は、学校全体としては75%と昨年並みであった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、講習会や単位取得条件についての速やかな情報伝達を職員に対して行うとともに、免許取得を奨励し、さらなる免許保有率の向上を目指す。</li> </ul>
学校運営	○開かれた学校	・学校情報の発信	・見やすいホームページ作りを心がけ、各学期1回以上の更新を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内における様々な活動の様子(学校行事等)の情報収集に努め、発信を心がける。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学期1回以上の更新はできたが、原稿を作る担当者がはっきりと決まっていなかった為、学校行事の発信が少なかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原稿制作を各学部の学習部員から担当者を決め、担当学部の原稿を作る。</li> </ul>
		・関係機関との連携	・学校見学の受け入れや教育相談活動について情報を発信し、積極的に連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保小中高等学校に対して巡回相談や学校見学、教育相談についての説明を行う機会を設け、関係機関等にパンフレットの配布や常設を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回相談については浸透してきており、学校見学も含め積極的に活用していただけた。学校等が増えた。教育相談としての連絡は少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談のパンフレットを掲示用として改善し、学校や関係機関等に配布、掲示してもらう。</li> <li>・巡回相談の活用例などを紹介し、周知、連携を行う。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区の自立支援協議会を活用した関係機関との連携体制の充実を図る。</li> <li>・地域の取り組みについて、校内への情報提供を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援協議会に積極的に参加して情報交換を行い、各地区の関係機関との連携に繋げる。</li> <li>・職員会議等で情報提供を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域の自立支援協議会で得た情報を分掌部や職員会議等で情報提供した。</li> <li>・参加することで関係機関との連携が深まり、校内外の支援において有益だった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害児に関わる福祉制度、新設の事業所等情報収集し、情報提供を行う。</li> <li>・地域での障害者が対面する課題の中で、在学中に学習できることを模索する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・くろかみ学園との情報交換を充実させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くろかみ学園との連絡会を年間6回行う。また、必要に応じてケース会等で随時連絡を取り合う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・くろかみ学園との連絡会は計画通り学期に2回、6回実施できた。ケース会も随時行った。学園連絡便を通して必要な連絡を取り合うことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や学園の様子について担任等がくろかみ学園と今後も随時情報交換を行っていく。文書配布の方法について毎年年度当初に確認する。</li> </ul>

② 健康・安全教育の充実を図り、安全・安心な教育環境を整備する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○危機管理	・施設の安全管理の徹底	・月に1回の安全点検を実施する。	・全職員で校内各設備の点検にあたる。	A	安全点検表の提出期限を守り、点検を実施することができた。	点検者が可能な限り改善に当たり、できない場合は迅速に連携し対応にあたる。
		・緊急対応意識の醸成	・災害避難訓練や不審者対応訓練などを実施し、児童生徒及び教職員の緊急対応意識を高めるとともに、教職員が緊急時への対応の仕方を理解し、緊急事態発生時に児童生徒を安全に避難させることができるようになる。	・年2回の災害避難訓練や不審者対応訓練、防犯教室、交通安全教室、原子力防災訓練、搜索訓練を実施することにより、児童生徒や教職員に緊急時の対応の仕方を知らせる。 ・防災等に関する資料や対応マニュアルなどを配付したり、校内に掲示したりして緊急対応意識を高める。	B	・学校で実施すべき訓練については訓練要領をもとに、ひととおり実施することができた。児童・生徒の避難も比較的スムーズにできたように思うが、実際はマニュアルどおりにできなかったミスもあった。突然の災害発生等に際し、訓練の要項や事前の説明等なしで、スムーズな対応ができるかといわれれば、疑問も残っている。	・災害が発生した際、主となる係間の連携が上手く運ぶよう、職員会議以外に、主なメンバーの話し合いの機会をつくる。 ・職員のマニュアルへの周知を図る。
		・児童生徒個々の緊急時の対応を充実させる。	・保護者と医療機関との連携を図り、対応マニュアルを担当と養護教諭が共有し、模擬訓練を行う。	A	高等部と医療的ケアで搬送訓練を行った。高等部では頭部打撲の対応、医療的ケアは速やかな搬送を行い体制を確認した。救急車の誘導ルートなどの統括の指示を体制表に加筆した。	「個別の緊急マニュアル」を例年6月頃作成していたが、今年度内に作成し来年度のスタートに間に合うようにする。	
教育活動	○健康安全指導	・児童生徒の健康状態把握	・毎日健康観察を行い、健康状態を把握する。 ・毎月1回児童生徒の体重測定を実施する。	・学校医の指導や健康観察の結果から、疾病等の早期発見・治療に努める。	A	担任の健康観察とともに養護教諭の巡回による観察を行った。毎月体重測定を実施し、家庭	学校保健委員会で学校医より指導を受け、改善、早期発見、治療に努める。
		・食育の指導充実	・給食指導で正しい食習慣とマナーを身につけ、食事を通して健康の管理を行う。	・学校ホームページに毎日の給食メニューを紹介し、食生活への意識を高める。 ・各学期に給食強化週間を設定する。	A	・毎日の献立や食に関する情報をホームページで発信しアクセス数が増えた。給食強化月間を毎学期設定し、栄養教諭が授業を行った。	・ホームページで食生活への意識を高められるように工夫する。給食強化週間は食事マナーなどを意識するような取り組みをする。

		・感染症予防対策の徹底	・インフルエンザや感染症や胃腸炎等の予防のために、情報の提供をする。	・手洗い・うがいの習慣化を図り、食中毒や感染症予防の意識の高揚を図る。	A	・タイムリーな内容の資料を作成した。1月は換気強化月間として、各学級で換気の回数を記録し、意識を高めた。今年度は感染症の罹患者数が少なかった。	・保健指導教材(電子黒板教材)の利用活性化を図り児童生徒の健康に対する意識を高める。
--	--	-------------	------------------------------------	-------------------------------------	---	---	--

### ③ 進路指導の充実に努め、卒後の自立的な社会生活を目指す。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●進路指導	・進路情報の提供と活用	・進路情報を随時収集、提供して指導に生かす。 ・就労までの手続きを職員で共有し、見通しを持った取り組みができるようにする。	・校内LANの掲示板機能、進路便り、進路掲示板等を活用して進路情報を発信する。 ・小学5年以上の生徒の保護者に進路希望調査を行い、福祉サービスや事業所の取り組み等のニーズを把握して進路研修会を開催する。 ・就労に向けた手続き等について、学部会などで年間スケジュールや内容等を提	A	・進路情報を回覧や進路掲示板等を使って随時発信することができた。 ・保護者のニーズを把握し、福祉サービスや事業所の取り組み、障害基礎年金などについて、職員、保護者、生徒、関係機関、地域の学校向けに研修会を開催することができた。 ・障害者を取り巻く環境、制度が変化しており関係機関と連携し、情報収集に努めることが必要である。	・引き続き進路情報の収集発信に努める。 ・関係機関と連携し、ニーズに合った研修会を企画する。
		・就業体験	・就労に関するスキル、意欲、態度の向上や進路決定に役立て、全員が希望の進路先に進む。	・中学部3年と高等部の生徒全員が、校内又は校外において就業体験を実施する。 ・高等部では、前期就業体験、特別就業体験等も実施し、早期の進路決定に向けて、必要に応じて就業体験を実施する回数や人数を増やす。	A	・中学部3年と高等部の生徒全員が、校内又は校外において就業体験を実施することができた。 ・必要に応じて就業施設体験を実施し、希望の進路に向け、就労のスキルや意欲態度を育てることができた。	・早い段階から生徒、保護者の意志を確認して関係機関との連携を図る。 ・事業所とは連携をいっそう深め、日頃から学校の情報も伝えるようにする。

### ④ 児童生徒の主体性を尊重し、「明るく」「素直に」「元気よく」「たくましく」生きる力を育む。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	○地域との連携	・交流及び共同学習の実施	・児童生徒の生活体験を広めるとともに、社会性を育てるため、小中学校との学校間交流や、家庭と連携した居住地校交流を実施する。	・小学部は小学校と12回、中学部は中学校と1回の学校間(直接・間接)交流を行う。 ・交流実施前には相手校、家庭と十分に連絡を取り合い活動内容について協議し、事前事後の学習も含め、組織的・計画的な交流を行	A	・学校間交流は相手校と事前に十分連絡を取ることができ、計画通り実施できた。 ・居住地校交流は小学部18回、中学部4回実施した。事前に早めの打ち合わせを行えたことは良かった。	・交流の時期や回数、内容については引き続き児童生徒の様子を考慮して無理のないように進めていく。本人や保護者の意向を尊重してお互いにとって実のある交流にしていく。

教育活動	●いじめの問題への対応	いじめ防止教育の推進	全ての児童生徒が安心して学校生活を営めるように、保護者とも協力していじめの防止や早期発見に努め、いじめが疑われる場合には、学校全体で適切かつ迅速に調査対応し、いじめの解消及び再発防止に取り組む。また、日頃からいじめのない学校作りには教職員全体で取り組む。	教職員全体に資料を配付し、いじめに対する研修に取り組む。 学級活動や生徒会活動を通して、いじめのない学級・学校の雰囲気作りに取り組む。 年3回のアンケート調査を行い、いじめの早期発見に努める。 職員相互の情報交換を密にし、児童生徒に関する情報も共有し理解を深める。	B	いじめアンケートの実施や児童・生徒会によるいじめ防止キャンペーンの実施などとおし、児童・生徒にいじめが悪いことだという意識を持たせることはできた。ただ、自分の言動が他の人に嫌な気持ちを抱かせていることを理解できない児童・生徒もおり、人間関係のトラブルはいまだ発生している。	生徒間のトラブルなどについて、学部内で情報交換の機会を増やし、その対応について協議するようにする。 児童・生徒から目を離さないようにし、トラブルの発生を未然に防ぐよう努める。
------	-------------	------------	---	---	---	--	--

**本年度の重点目標に含まれない共通評価項目**

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	具体的な改善策
教育活動	◎教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	ICT機器を利活用した授業・支援の充実	すべての学年において電子黒板、学習者用端末を使った授業の実践や支援ができる環境をつくる。 初任者研修において、授業等の中でICT機器を積極的に活用する。	授業で使用した教材等を校内LANに保存し、全職員が閲覧、使用が可能な状態にする。 ICT機器の操作方法の説明や、それらを活用した授業や支援の実践について校内研修会等で紹介する。 ICT機器を利活用した研究授業を4回以上実施する。	B	作成データを校内LANを使って閲覧、使用可能な状態にした。保存の際、個人情報の削除等の配慮が必要であるが、ルールを守り、活用することが出来た。 夏季休業中の職員研修(希望者)にて、アプリケーションの利活用についての研修を実施することが出来た。 初任者研修や経3年研を初め、様々な授業内で活用することが出来た。	データの利活用を進める上で、検索しやすいようにフォルダやファイル名に汎用のルールを持たせられるようにしたい。 端末とその周辺機器の利活用について、周知・研修の機会を増やせるようにしたい。 オリエンテーション等のプレゼンだけでなく、生徒が使えるエデュメントデータの作成が出来るような、研修の機会を設けたい。
学校運営	●地域支援	センター的機能の充実	地域の幼・保・小・中・高との連携を図る。 職員の専門性向上のための情報提供を行う。	要請に応じ巡回相談を行い、支援についての情報提供、必要に応じて専門家との連携を図る。 事前にアンケートをとり、現場における様々なニーズを踏まえ、専門性の向上につながる研修会を年2回開催する。 新転任者に向けての特別支援教育全般について、全職員に向けての発達障害に関する研修会を開催する。	A	巡回相談については、必要に応じて各関係機関と連携しながら行った。 事前のアンケートや巡回相談での相談内容等より課題を設定し、外部講師を招聘しての研修会及び情報交換会を行った。また、実践事例の発表も行うことができた。 校内における研修会、ケース会議等について、相談支援部や関係職員と連携して業務を行った。	巡回相談後の評価を受ける機会がないので、年度当初のアンケートで各学校等の意見を集約し、今後の活動の参考にしたい。 本校の取り組みや実践等を地域の特別支援教育にも役立ててもらえるよう、他の分掌部と協力して情報を提供する機会を設ける。 アンケート等を取り、ニーズや課題を把握しながら、校内における研修会の充実を図る。

**4 本年度のまとめ・次年度の取組**

職員一人一人が、各学部や分掌で設定した目標に向かって尽力することができ、評価としては概ね良好である。今年度は、「個別の指導計画」等の様式的大幅改編や、評価の2期制、職業コース(高等部)導入の決定等、大きく変化する方向へ舵を取った年であった。次年度以降、具体的な運用の中で、新たな課題を発見したり、必要な調整をどれだけ行っているのかが重要なポイントであると考えている。

●は共通評価項目、○は独自評価項目